

## 研修プログラム

研修は山形大学医学部放射線診断科と放射線治療科にて行われる。入局時に下記に示す放射線診断科プログラム(診断科希望)、放射線治療科プログラム(治療科希望)、共通プログラムのいずれかを選択する。(専攻科決定/変更によっては、プログラムを適宜変更することができる)。

### 1. プログラム

下記プログラムはあくまでも総研修期間における各科研修期間の比率であり、場合によっては診断科研修と治療科研修が数か月おきに交互に行われることがある。

#### 診断科プログラム

診断科研修(必須) (18か月, CT/MRI/Angio/核医学・PET)	治療科研修(必須) (6か月, 放射線治療/外来/病棟)	関連病院、放射線診断科での研修 (17か月, このうち関連病院での12か月を含む)
---	---------------------------------	--

※原則として最初の24か月の中に関連病院研修(12か月)が含まれる

#### 治療科プログラム

治療科研修(必須) (12か月, 放射線治療/外来/病棟管理)	診断科研修(必須) (12か月, CT/MRI/Angio/核医学・PET)	関連病院、放射線治療科での研修など(17か月)
------------------------------------	---	-------------------------

※治療科プログラムでは最初の24か月は大学病院にて行われる。

#### 共通プログラム

診断科研修(必須) (12か月, CT/MRI/Angio/核医学・PET)	治療科研修(必須) (12か月, 放射線治療/外来/病棟)	関連病院、放射線診断科での研修など(17か月, このうち関連病院での12か月を含む)
---	----------------------------------	--

※共通プログラムでは最初の24か月は大学病院で研修を行いながら志望科を考え、のちの関連病院研修先に反映する

## 2. 目標経験症例数(機構認定専門医カリキュラムガイドラインより)

### (1) 経験すべき検査・読影

モダリティ・手技	目標症例数
X線単純撮影	400例
消化管X線検査	60例
超音波検査	120例
CT	600例
MRI	300例
核医学検査	50例

## (2)経験すべき治療法

治療法	経験症例数	内訳	
IVR	30 例	血管系	10 例以上
		非血管系	5 例以上
放射線治療	30 例	脳・頭頸部	4 例以上
		胸部・乳腺	4 例以上
		腹部・骨盤	4 例以上
		骨軟部	4 例以上

※上記はあくまでも目標であり、研修中はできるだけこれ以上の症例経験を望む。

<補足>

- ・ 研修が不足する可能性のある超音波検査や消化管造影は、専門研修基幹施設の責任の下に専門研修関連施設での研修で補完する。また、実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learning の活用等によって、不足する研修を補完する。

### 3. 研修修了後

プログラム修了後(放射線科専門医取得後)は放射線診断科、放射線治療科のいずれかを選択する。2年間の専修の後に放射線診断専門医、放射線治療専門医の取得を目指す。